【資料24-1】
※資料20の最新版

【資料24-1】第5次総合計画前期基本計画の振り返りについて（概要版）

取組名		10年後に目指したい将来像	振り返りの総括
23	持続可能な環境づくり	2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、市民や事業者との共通認識の中、日常生活や事業活動での地域環境保全活動が営まれています。市民一人ひとりが、ごみ減量化・資源化を意識して実践し、環境負荷の少ない商品の普及が進んでいます。また、新ごみ処理施設は、地域に密着した地産地消型エネルギーシステムを構築し、地域のエネルギーセンターとして地域資源の循環や脱炭素社会の実現を目指します。	前期計画期間では、近年の気候変動、地球温暖化を踏まえ、ゼロカーボンシティの実現に向けて、セミナーやイベント等を開催するなど、市民一人ひとりの環境意識の醸成と行動変容の促進に向けた取組を進めた。また、再生可能エネルギーの促進については、事業所や個人住宅への太陽光発電設備設置支援を促進するとともに、ごみ処理施設については、現施設の老朽化に伴い、環境性能やライフサイクルコストに優れた新ごみ処理施設の整備（R10.10供用開始予定）に着手するなど、地域循環型社会や脱炭素社会の実現に向けて取組を進めた。 成果指標では、ごみの再生利用率、ごみの焼却量については、R6年度実績値で既に目標を達成できた一方、市民意識調査では重要度が低く、また市域の温室効果ガス排出量は、増加傾向にあることから、市民一人ひとりのさらなる環境意識の向上が望まれることである。 後期計画では、ゼロカーボンシティの実現に向けて、効果的な施策、具体的な支援、仕組みづくりを構築しながら、市民のさらなる環境への意識の醸成と行動変容の促進を図る必要がある。

市民意識調査の結果		指標等の進捗状況							
重要度	3.74	指標名		基準値（R2）	方向性	R4	R5	R6	目標R8
重要度 平均からの偏差	-0.24	1	市域の温室効果ガス排出量	-	↓	759,483t-co2（H30）	747,849t-co2（R2）	782,402t-co2（R3）	減少
重要度順位	22/25位	2	クールチョイス運動賛同者数	-	↑	87人	-	-	増加
満足度	3.06	3	太陽光発電率	-	↑	11.2%（R2）	11.8%（R3）	12.4%（R4）	増加
満足度 平均からの偏差	-0.02	4	ごみの再生利用率	15.7%	↑	18.8%	18.7%	19.2%	18.0%
満足度順位	11/25位	5	ごみの焼却量	29,639t	↓	27,475t	26,369t	25,352t	27,464t

【資料 24-2】
※資料 20 の最新版

≪前期基本計画≫

「さと」の恵みを守り、活かすまち ～うるおいづくり～

23 持続可能な環境づくり

1. 10年後に目指したい将来像

2050年に温室効果ガス※の排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ※」の実現に向けて、市民や事業者との共通認識の中、日常生活や事業活動での地域環境保全活動が営まれています。市民一人ひとりが、ごみ減量化・資源化を意識して実践し、環境負荷の少ない商品の普及が進んでいます。また、新ごみ処理施設は、地域に密着した地産地消型エネルギーシステムを構築し、地域のエネルギーセンターとして地域資源の循環や脱炭素社会の実現を目指します。

	2. 10年後に心配される三田の状況		3. 10年後に目指したい三田の状況	取り組み
A	市民の環境に対する意識が浸透していないため、二酸化炭素排出量実質ゼロの取り組みが進まず、持続可能なまちづくりが困難な状況になっていること	➡	環境にやさしい賢い選択が市民や事業者に定着し、ゼロカーボンシティの実現に向けた目標達成を目指してSDGs※の持続可能なまちづくりが進んでいること	❶ ❸
B	エネルギー利用の脱炭素化が進まないことで地球温暖化※のリスクが高まり、異常気象による災害等により市民生活に支障をきたしていること	➡	再生可能エネルギー※の導入が活発に進むことで、地球温暖化防止と気候変動による災害等のリスクの軽減に貢献していること	❷
C	資源循環に対する意識が浸透していないため、市民一人ひとりの行動につながりにくく、ごみの減量化・資源化が進んでいないこと	➡	SDGsの理念や資源循環意識が定着し、市民一人ひとりが積極的にごみ減量化・再資源化に取り組んでいること	❸ ❹
D	ごみ出しルールがわかりにくいため、正しい出し方を理解している人が少なく、高齢者等もごみの出し方に不便さを感じていること	➡	わかりやすいごみの出し方が周知され、高齢者、外国人等への支援制度が整い、すべての人が正しいごみ出しができていること	❹
E	ごみ処理工程から発生する熱エネルギーが充分に活用されず、温室効果ガスの削減ができていないこと	➡	ごみ処理工程から発生する熱エネルギーが有効活用され、温室効果ガス削減に加え、災害対策等にも貢献していること	❺

■住宅に設置する省エネ設備の状況

		住宅数(戸)	普及率(%)
住宅総数		39,680	—
太陽熱を利用した温水機器等がある		1,840	4.6
太陽光を利用した発電機器がある		3,390	8.5
二重サッシ又は複層ガラスの窓がある	すべての窓にある	6,030	15.2
	一部の窓にある	7,490	18.9
計		18,750	47.3

※**温室効果ガス** 33ページ参照
※**ゼロカーボンシティ** 33ページ参照
※**SDGs** 31ページ参照
※**地球温暖化** 33ページ参照
※**再生可能エネルギー**
太陽光や風力、地熱といった地球資源の一部等、自然界に常に存在するエレルギーのうち、エネルギー源として永続的に利用できると認められるものをいう。
※**里山** 11ページ参照
※**バイオマス**
動植物から生まれた再利用可能な有機性の資源で化石資源を除いたものをいう。
※**クールチョイス**
二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する製品の買い替え、サービスの利用、ライフスタイルの選択等の地球温暖化対策に資するあらゆる賢い選択をしていくことを推奨する取り組みをいう。
※**一般廃棄物**
廃棄物の処理及び清掃に関する法律における産業廃棄物以外の廃棄物をいう。

≪後期基本計画(素案)≫

「さと」の恵みを守り、活かすまち　～うるおいづくり～

【23】持続可能な環境づくり

1　10 年後に目指したい将来像

2050 年に温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、市、市民、事業者・団体等あらゆる主体が、高い環境意識を持ち、連携しながら地域環境保全活動に取り組んでいます。市民一人ひとりが、ごみ減量化・資源化を意識して実践し、環境負荷の少ない商品の普及が進んでいます。また、新ごみ処理施設は、地域に密着した地産地消型エネルギーシステムを構築し、地域のエネルギーセンターとして地域資源の循環や脱炭素社会の実現を目指します。

	2　10 年後に心配される三田の状況		3　10 年後に目指したい三田の状況	取り組み	指標
A	市民の環境に対する意識が浸透していないため、二酸化炭素排出量実質ゼロの取り組みが進まず、持続可能なまちづくりが困難な状況になっていること	➡	脱炭素につながる豊かな暮らし実現のための行動変容やライフスタイルの転換を図りながら、ゼロカーボンシティの実現に向けた目標達成を目指してＳＤＧｓの持続可能なまちづくりが進んでいること	①③	a・c d・e
B	エネルギー利用の脱炭素化が進まないことで地球温暖化のリスクが高まり、異常気象による災害等により市民生活に支障をきたしていること	➡	再生可能エネルギーの導入が活発に進むことで、地球温暖化防止と気候変動による災害等のリスクの軽減に貢献していること	②	A・c
C	資源循環に対する意識が浸透していないため、市民一人ひとりの行動につながりにくく、ごみの減量化・資源化が進んでいないこと	➡	ＳＤＧｓの理念や資源循環意識が定着し、市民一人ひとりが積極的にごみ減量化・再資源化に取り組んでいること	③④	a・b d・e
D	ごみ出しルールがわかりにくいため、正しい出し方を理解している人が少なく、高齢者等もごみの出し方に不便さを感じていること	➡	わかりやすいごみの出し方が周知され、高齢者、外国人等への支援制度が整い、すべての人が正しいごみ出しができていること	④	d・e
E	ごみ処理工程から発生する熱エネルギーが充分に活用されず、温室効果ガスの削減ができていないこと	➡	ごみ処理工程から発生する熱エネルギーが有効活用され、温室効果ガス削減に加え、災害対策等にも貢献していること	⑤	a

【資料 24-2】
※資料 20 の最新版

≪前期基本計画≫

4. 取り組み

▶市民

- 様々な製品選びやライフスタイル等において温室効果ガス排出削減につながる「賢い選択」を心掛けます。
- 住宅設備の更新時等にあわせて可能な限り再生可能エネルギーを導入します。
- ごみ減量化につながる消費行動の変容を図ります。
- ごみ出しのマナーを守ります。
- 日常生活において、ごみの減量化・資源化に取り組みます。

▶事業者・団体等

- 製品選びや提供するサービスにおいて温室効果ガス排出削減につながる「賢い選択」を心掛けます。
- 再生可能エネルギーの導入を検討するとともに、購入電力には温室効果ガス排出係数の低いものを選びます。
- 再生資源の活用等循環型社会の実現に寄与する商品開発やサービスを提供します。
- 事業系ごみを適正に処理します。
- 地域におけるごみ出しに困っている高齢者等に対してごみ出しの支援等、共助の仕組みづくりを行います。

▶市

❶ゼロカーボンシティへの挑戦

地球温暖化防止対策実行計画を策定し、省エネ性や耐久性等に優れた良質で環境にやさしい住宅を促進するなど、市民、事業者と一丸となってゼロカーボンシティの実現とともにSDGsの理念に基づく持続可能な社会を目指します。市が所有する車両についても、更新に合わせて電気自動車等の省エネ車両の導入を進めます。

❷積極的な再生可能エネルギー計画の推進

再生可能エネルギーの主力となる太陽光発電を推進するほか、新ごみ処理施設整備・運営や里山※のバイオマス※等地域資源を活かした、持続可能な新たな再生可能エネルギー利用の拡大を、自然環境や景観の保全及び市民の安全確保に配慮しながら進めます。市が所有する施設等は積極的に太陽光発電設備を設置します。

❸子どもから大人まで多様な機会を活用した環境教育

SDGsの理念が定着し、持続可能な循環型社会の実現に向けて、市民一人ひとりの自発的な取り組みが拡大するよう学校教育やごみ処理施設見学、市民活動等多様な機会を活用した環境学習、情報発信、啓発活動に取り組みます。

❹循環型社会に貢献できるごみの処理・再資源化

誰もが衛生的な生活を送り、手軽にごみの減量化や再資源化に取り組めるよう効率的・効果的なごみの出し方や収集方法等、高齢社会を見据えた必要な取り組みを進めます。地域団体や民間事業者の取り組みを支援し、ごみ処理の適正化を進めます。

❺(仮称)さんだ環境エネルギーセンターの整備

新ごみ処理施設は環境性能やライフサイクルコストに優れた施設とし、さらに地域循環型社会や脱炭素社会の実現に向けて、焼却エネルギーを使った発電(サーマルリサイクル)を行うことで、地域に密着したシンボリックな地産地消型エネルギーセンターとして整備を進めます。

≪後期基本計画(素案)≫

4　取り組み

市民

◆脱炭素につながる新しい豊かな暮らし実現のための行動変容やライフスタイルの転換を図ります。
◆住宅設備の更新時等にあわせて可能な限り再生可能エネルギーを導入します。
◆ごみ減量化につながる消費行動の変容を図ります。
◆ごみ出しのマナーを守ります。
◆日常生活において、ごみのさらなる減量化・資源化に取り組みます。

事業者・団体等

◆脱炭素につながる新しい豊かな暮らし実現のための行動変容やライフスタイルの転換を支援します。
◆再生可能エネルギーの導入を検討するとともに、購入電力には温室効果ガス排出係数の低いものを選びます。
◆再生資源の活用等循環型社会の実現に寄与する商品開発やサービスを提供します。
◆簡易包装やリサイクルの推進など廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を軸に環境への負荷が少ないまちづくりに取り組みます。
◆事業系ごみを適正に処理します。
◆地域におけるごみ出しに困っている高齢者等に対してごみ出しの支援等、共助の取り組みを充実します。

市

①ゼロカーボンシティへの挑戦

市民、事業者と一丸となってゼロカーボンシティの実現とともにＳＤＧｓの理念に基づく持続可能な社会を目指します。より多くの市民一人ひとりが、他人事ではなく自分事として環境意識をもち、主体的に脱炭素につながる新しい豊かな暮らし実現のための行動変容やライフスタイルの転換などの脱炭素行動が実践できるよう更なる意識醸成を図ります。市においても公共施設のLED化、省エネ設備の更新、所有する車両の電気自動車等省エネ化などゼロカーボンシティの実現に向けて取組みを進めます。

②積極的な再生可能エネルギー計画の推進

再生可能エネルギーの主力となる太陽光発電を推進するほか、新ごみ処理施設整備・運営や里山のバイオマス等地域資源を活かした、持続可能な新たな再生可能エネルギー利用の拡大を、自然環境や景観の保全及び市民の安全確保に配慮しながら進めます。市が所有する施設等は積極的に太陽光発電設備を設置します。

③こどもから大人まで多様な機会を活用した環境学習

ＳＤＧｓの理念が定着し、持続可能な循環型社会やゼロカーボンシティの実現に向けて、市民一人ひとりの自発的な取り組みが拡大するよう学校教育やごみ処理施設見学、市民活動等多様な機会を活用した環境学習、情報発信、啓発活動に、市民や事業者・団体等との協働により取り組みます。

④循環型社会に貢献できるごみの処理・再資源化

高齢化社会の進展や外国人市民の増加なども念頭に置きながら、市民一人ひとりが、手軽にごみの減量化や再資源化に取り組めるよう、効率的・効果的なごみの出し方や収集方法等について、わかりやすいハンドブックによる啓発を行うなど必要な取り組みを進めます。地域団体や民間事業者の取り組みを支援するとともに、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を軸として、ごみ処理の適正化を進め、循環型社会の形成に取り組みます。

⑤（仮称）さんだ環境エネルギーセンターの整備

新ごみ処理施設は環境性能やライフサイクルコストに優れた施設とし、さらに地域循環型社会やゼロカーボンシティの実現に向けて、焼却エネルギーを使った発電（サーマルリサイクル）を行うことで、地域に密着したシンボリックな地産地消型エネルギーセンターとして整備を進めます。

【資料 24-2】
※資料 20 の最新版

≪前期基本計画≫

5. 成果指標等

指標名	基準値	基準年	目標値(R8)
市域の温室効果ガス排出量（t-CO_2）	―	―	減少
クールチョイス※運動賛同者数	―	―	増加
太陽光発電率	―	―	増加
ごみの再生利用率	15.7%	(R2)	18.0%
ごみの焼却量	29,639t	(R2)	27,464t

■主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市環境基本条例、三田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例
関連計画	三田市環境基本計画、三田市地球温暖化対策実行計画、三田市一般廃棄物※処理基本計画

≪後期基本計画(素案)≫

◆評価指標

	指標名	現状値（基準年）	目標値（R13）
	KGI 施策重要度・満足度	3.74pt 3.06pt	↑
a	KPI 市域の温室効果ガス排出量(t-CO2)	782,402t-CO2 (R3)	減少
b	KPI 環境学習への参加者数	31,702 名（R6）	増加
c	KPI 太陽光発電率	12.4%(R4)	16.0%
d	KPI ごみの再生利用率	19.2%(R6)	19.6%
e	KPI ごみの焼却量	25,352t(R6)	25,325t

●審議会委員意見を受けて変更を反映した場合●

≪指標の変更≫ → 審議会委員意見一覧 No.〇

指標名	現状値（基準年）	目標値（R13）
KPI 市域の温室効果ガス排出量(t-CO2)	782,402t-CO2(R3)	~~減少~~ （変更後）454,346t-CO2

≪指標の変更≫ → 審議会員意見一覧 No.〇

指標名	現状値（基準年）	目標値（R13）
KPI ~~環境学習への参加者数~~ （変更後）環境学習参加者の受講後のアンケートにおいて、「環境意識が高まった」と答えた方の割合	~~31,207 名（R6）~~ （変更後）－	~~減少~~ （変更後）70.0%以上または5段階評価で 3.5 以上

◆主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市環境基本条例、三田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例
関連計画	三田市環境基本計画、さんだゼロカーボンシティ推進計画（地球温暖化対策実行計画区域施策編）、さんだエコプラン（地球温暖化対策実行計画事務事業偏）、三田市一般廃棄物処理基本計画、三田市循環型社会形成地域計画

最上位指標

市民の幸せ実感度の向上

【資料24-3】
※資料20の最新版

	KGI（成果指標）	KPI（活動指標・取組指標）		現状値	目標値	指標の設定理由	所管課
23 持続可能な環境づくり	（主観的指標） 施策重要度・施策満足度	-		重要度 3.74pt 満足度 3.06pt	向上	全施策固定指標	-
		市域の温室効果ガス排出量(t-CO2)	継続	782,402t-CO2 (R3年度)	減少	温室効果ガスの増加に起因する気候変動は、自然災害の頻発化・激甚化や農林水産物、自然生態系への影響など、日々の生活に確実に影響を及ぼしつつあり、その対策は世界共通の喫緊の課題となっている。国においても市域においても、温室効果ガス排出量を下げる必要がある。	環境政策課
		環境学習への参加者数	新規	31,702名(R6年度)	増加	市民一人ひとりが環境意識を持ち、脱炭素につながる主体的な取組みを実践することが、ゼロカーボンシティ実現の重要な要素であり、その意識醸成の一つである環境学習への参加者数の増加を目指す。	環境政策課
		太陽光発電率	継続	12.4%(R4年度)	16%	2050年にCO2の排出量実質ゼロを目指す動きの中で、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーは資源が枯渇せず、永続的に利用することができるエネルギーであることから、森林資源の保全との調和等を図りながら再生可能エネルギーの導入を増やしていくことにより、エネルギーの脱炭素化が進むことにつながる。	環境政策課
		ごみの再生利用率	継続	19.2%(R6年度)	19.6%	資源を有効活用する再資源化を推進し、ごみ減量とともに循環型のまちを目指す。	クリーンセンター
		ごみの焼却量	継続	25,352t(R6年度)	25,325t	ごみの焼却処分は直接的なCO2の排出を伴うことから、一層の減量化・再資源化を進め、燃やすごみを減らすことでCO2の排出を確実に減らす。	クリーンセンター